

幼保連携型認定こども園

宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園・清武みどり幼稚園

1 はじめに

令和4(2022)年度は、建学の精神「礼節・勤労」を幼児向けの文言に改め、子どもを中心にすえた21世紀型の教育・保育に着手した新しい年となった。「こどもから始まる みどりから始まる～生きる根っこを育む保育～」を教育・保育目標とし、五感を通して豊かな遊びや活動を体験し、お友達と夢中で遊び、新しい発見を楽しみ、自分や周りの人を大切にできる子どもたちの育成に取り組んだ。

また、日本知育玩具協会の保育環境改善プログラムに取り組み、玩具と絵本を整備し、職員研修に取り組んだ。同時にプロジェクト研究に着手し、両園の合同研修会で、年齢別の実践発表を行った。これらを通して、保育・教育の質向上に取り組んだ。

また、両園では、9月より3歳未満児クラスにおいて育児担当制を導入し、愛情豊かでより丁寧な保育に取り組んだ。清武みどり幼稚園では、3歳以上児クラスにおいて令和5(2023)年度より実施予定の異年齢保育についての事前研修を重ね、準備を整えることができた。

両園においては、大改革の一年であったが、大きな混乱なく無事に一年を終えることができた。

2 事業計画及び取組内容

事業計画	取組内容	達成状況・課題
(1) 21世紀型保育の実現	<ul style="list-style-type: none"> ① これまでの保育を振り返り、今、そしてこれから求められている保育のあり方を究明する。 ② 国や全国の幼児教育・保育の動向について、短大・大学と連携し、情報収集に努める。 ③ 必要に応じて先進地視察を行う。 ④ 目指す21世紀型保育の姿を明確にし、保育目標を見直す。 ⑤ 21世紀型保育の具現化のために「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」をはじめ年齢別年間指導計画や各種計画の見直しを計画的に行っていく。 ⑥ 目指す保育の実現のために必要な絵本や玩具等の環境整備を進めていく。 	<p>令和4年4月より、短大・大学と連携して21世紀型保育に全職員とともに取り組んだ。4月には、玩具、絵本等を整備し保育環境を整え新しい年度を迎え、充実した保育環境で一年を終えることができた。</p> <p>宮崎県幼稚園連合会に加え、新たに認定こども園協会に加盟し、こども園としての在り方を学ぶと同時に、みどり20人、清武みどり5人が認定こども園の各種講習会にも参加し、研鑽を深めた。</p> <p>9月に三重県、愛知県への先進地視察を行い、最先端の保育の視察を行うことができた。</p> <p>年間5回の保育環境改善プログラムによる子ども主体の保育の研修会を実施し、職員の子どもの理解がより進んだ。また、9月より3歳未満児で「育児担当制」を採り入れたことにより、環境を整えることの重要性を改めて学んだ。</p> <p>短大・大学との連携では、テーマを設定して保育に取り組む、両園合同研修会では、年間3回の研修を実施し、子ども理解を深めることができた。</p> <p>保育・教育実習では連続性のある保育、ドキュメンテーション記録に新たに取り組む、学生にも子ども主体の保育についての理解が深まった。今後は、さらに子ども主体の保育を進め</p>

		<p>るため、研修会の受講や両附属園による合同研修会などに継続して取り組んでいく。</p> <p>初めての取り組みで正解のないことを生み出していくなど試行錯誤の1年間であった。変わることへの不安や自分を否定されていると感じる感覚が取り除かれるまでに時間を要した職員もいた。不安な気持ちを取り除き、目指したい方向へ進めるよう研修会を重ねたが、その理解はそれぞれであった。新しいものへと移行する際は、十分な学びと理解が必要であった。</p>
<p>(2) 一人でも、みんなとでも遊ぶことのできる教育・保育環境の充実</p>	<p>①園児一人一人の発達段階を考慮した教育・保育活動の推進</p> <p>②特色ある教育・保育活動の推進（英語であそぼう、音であそぼう、ボールで遊ぼう）</p> <p>③園庭の新たな遊具の選定及び遊具の配置の見直し</p> <p>④多様な園外保育の実施（芋掘り、みかん狩り、施設見学、園周辺散策等）</p> <p>⑤集団の一員としての気持ちを育む当番活動の推進</p> <p>⑥クラスや学年、縦割り等の多様な集団での活動の推進</p>	<p>知育玩具を導入し遊びを選べる環境が整ったことで、一人ひとりの子どもの発達に合った遊びが展開された。特別支援を必要とする園児に対しては、個別支援計画を策定した。</p> <p>また、多様な園外保育や子ども主体の行事、季節にあった園外保育を楽しんだ（梅ちぎり、交通公園、フローランテ宮崎等）。園庭でも職員が工夫を凝らした遊びが展開され、学年を超えて遊んだり、他児をまねて一緒に遊びを楽しんだりする姿があった。</p> <p>多様な園外保育を実施したが、特色ある教育の日程の調整や、コロナ感染症ウイルスの状況で行事が混み合い忙しい状況もあった。</p> <p><課題>園庭環境のさらなる充実が望まれる。</p>
<p>(3) 相手に気持ちが伝わる「あいさつ運動」の推進</p>	<p>①登園時・降園時の気持ちのよいあいさつの推進</p> <p>②毎学期の「あいさつ名人」表彰【清武みどり】</p>	<p>あいさつは自然にしかえることがよいので、あいさつ運動をしたり、表彰で促進するということについては行わなかった。</p> <p>職員からあいさつを心がけた。全園児が自らあいさつするには至らなかった。</p> <p><課題>あいさつについては、職員から子どもにも保護者にもあいさつを続け、気持ちよい関係性を築けるよう今後さらなる取組が必要である。</p>
<p>(4) 豊かな心を育む教育・保育環境の充実</p>	<p>①安定した保育者と園児との関係を築き、園児一人一人が自分の居場所を実感できる保育環境の充実</p> <p>②自然事象や動植物に触れる機会や環境の整備</p> <p>③異年齢交流や地域との触れ合い活動等を通して「思いやり」や「ありがとう」の気持ちの醸成</p>	<p>保育環境改善プログラムを進め、子ども主体の保育を行う中で、保育者も子どもと一緒に五感を使って遊ぶ機会が増えた。また、年間の4つのテーマ（「自然のいろ」「ひなたとひかげ」「わたしの力 みんなの力」「みんなのいいところみつけた」）の視点から見えたことを発表したり、遊びの年表を作ったりする機会があった事で、保育を振り返り、保育の質向上につ</p>

	<p>④ 「読み聞かせ」や文化活動の導入</p>	<p>なだった。</p> <p>毎日の絵本の読み聞かせを日課に組み込んだほか、保護者による絵本の読み聞かせも実施した（みどり：年間6回 / 清武みどり：年間8回）。</p>
<p>(5) 健康・保健・安全面に配慮した教育・保育環境の充実</p>	<p>①保育者も一緒に遊ぶ室内・室外遊びの充実 ②保育環境の整備と危機管理体制の充実 ③交通安全教室の実施 ④毎月の避難訓練及び安全点検の実施 ⑤感染予防対策の徹底と清潔の保持、及び保護者への情報提供と共有 ⑥園医による内科検診及び歯科検診の実施 ⑥ 学校薬剤師による定期検査適宜指導</p>	<p>年間を通して計画的に保育環境を整備し、避難訓練12回、不審者訓練1回、交通安全教室1回、エピペン研修1回、救急救命講習1回、内科検診2回、歯科検診1回、学校薬剤師による定期検査（みどり：5回 / 清武みどり：7回）を実施した。園内の安全点検、健康診断等の実施により、事故や疾病を未然に防ぐ策を講じた。これらを通して「命を預かる」という職員間の意識を新たにした。</p> <p>園バスには置き去り防止装置の設置（両園5年度当初に設置）、種々の安全点検等を整備した。</p> <p>定期的に事故報告とヒヤリハットの共有を行い、参加できない職員については記録で確認できるようにした。</p> <p><課題>地震から津波が発生した場合、園から大坪記念ホールへの移動が速やかにいかかどうかが課題である（みどり）。</p> <p>さまざまな時間帯での避難訓練を実施しているが、常勤だけでなく非常勤職員も含めて共通理解することを今後も徹底していく。</p>
<p>(6) SDGs</p>	<p>①食に関する指導の充実（SDGs 目標 2 関連）【みどり／清武みどり】 ②保護者と連携し、ペットボトルキャップを収集する。（SDGs 目標 12 関連）【みどり】 ③毎月一回、給食会議を行い、園児の食の実態を把握し、こども園としての食育の充実を図る。 ④保護者を対象にした給食試食会を実施し、献立に対する理解の場を設定する。</p>	<p>給食時に、子どもと食べながら献立や食材についての話を取り入れていた。給食会議（年間12回実施）の中では離乳食、アレルギー、献立など、食べることが楽しく、安全であるようにという観点から、話し合いを行った。</p> <p>ペットボトルキャップの収集は、学園高校との連携で行った。保育の中でも海の環境について考える連続した保育が行われたクラスがあり、子どもたちが SDGs について学ぶ機会になっていた（みどり）。</p> <p><課題>乳幼児ならではの SDGs はどうあれば良いのか、保育の中で取り入れていく事を検討したい。</p>

<p>(7) 考える力のもとを育てる教育・保育環境の充実</p>	<p>①動植物や季節等, 自然の変化に気づける場の設定 ②園児一人一人の気づきを表現させる場の設定 ③園児一人一人が遊びを工夫する場の設定</p>	<p>自然との関わりを目指した保育に取り組むため園庭の樹木や草花を整えたり, 樹木を整備することに取り組んだことで, 色水遊びや泥・水遊びなど, 学年を超えて遊びが広がるきっかけが多くあった。</p> <p><課題>園庭環境の充実が課題である。</p>
<p>(8) 「人材育成制度 A&A チェック」活用による教職員の資質向上</p>	<p>①職員の職能向上や日々の保育の充実を図るための職員との個別面談や学期毎の自己評価シートによる振り返りの実施</p>	<p>今年度は新しい保育を採り入れたことから, 職員との対話を増やすことを心がけた。A&A チェックを実施する中でそのことについての職員間の理解が進んだ。</p> <p><課題>こどもの人権・人格の尊重への意識向上が課題である。</p>
<p>(9) 研修参加に対する保育者の意識改革</p>	<p>①職員自らのキャリアアップを図るために必要な研修への積極的参加の推進</p>	<p>みどりは 41 回, 清武みどりは 60 回の研修に参加し, 全職員がキャリアアップに必要な研修を受講することができた。(新規採用者は別途研修会に参加)</p>
<p>(10) 園内研修の推進</p>	<p>①園としての組織力や教育力・保育力向上のための研修報告会や園内研修の実施</p>	<p>保育環境改善プログラム年間 5 回, 両園合同研修会 3 回を実施できた。また両園合同の研修会についてはプロジェクトの報告などを行い, 実践したことを振り返ることができた。</p> <p><課題>全員の参加を目指しているが, 土曜保育があり, 交代での参加となった。内容については今後とも実践報告を行い, 子ども理解を深めるとともに, 職員の困り感の解決やヒントに繋がる研修会の内容を検討する。</p>
<p>(11) 子育て支援</p>	<p>①乳幼児期の教育・保育センターとしての役割を果たす。 ②一時預かり (幼稚園型/預かり保育) の充実 ③未就園児の体験教室や子育て相談会を定期的開催</p>	<p>チャイルドルームを 6 回開催した (みどり)。にこにこルームを 10 回開催した (清武みどり)</p> <p><課題>満 3 歳児の保育の実施。未就園児の体験教室の増, 多機能的な保育形態についての検討が必要である。</p>
<p>(12) 施設・設備の改善充実</p>	<p>①安全な環境で安心して教育・保育ができる施設・設備の整備</p>	<p>技術員を採用したことにより, 施設・設備の整備を進めることができた。</p> <p>子どもの飛び出しなど気になる箇所があったので柵を作ってもらい, 対応することが出来た (清武みどり)。</p> <p><課題>セキュリティーの充実のため, デジタルロック, 塀の設置が課題である (みどり)。技術員が 1 人になることで, バス乗務</p>

		以外の作業について何を優先するか確認しながら行う（清武みどり）。
--	--	----------------------------------